

表3-1 modified NIH Stroke Scale(NIHSS)(2001)

項目	スコア	検査	解説	表3-2 日NIHSS 分類の番号
意識レベル 質問	0=2問とも正答 1=1問に正答 2=2問とも誤答	「今月の月名」および「年齢」を尋ねる。	近似した答えは正答とみなさない。最初の答えのみを評価する。失語症例では、言語障害を十分加味して判断する必要がある。	1B
意識レベル 従命	0=両方の指示動作が正確に行える 1=片方の指示動作のみ正確に行える 2=いずれの指示動作も行えない	「開眼と閉眼」および「離握手」を指示する。	最初の反応のみを評価する。失語症例では、パントマイムによる反応を評価する。麻痺がある時は健側で評価する。	1C
注視	0=正常 1=部分的注視麻痺 2=完全注視麻痺	左右への眼球運動(追視)を指示する。	従命不能例では、頭位変換眼球反射(人形の目現象)または眼前庭反射により評価する。眼球運動神経の単独麻痺例はスコア1とする。共同偏視があり、人形の目現象または眼前庭反射によっても反応しない時はスコア2とする。	2
視野	0=視野欠損なし 1=部分的半盲(四分盲を含む) 2=完全半盲(同名半盲を含む) 3=両側性半盲(皮質盲を含む全盲)	片眼ずつ対座法により、四分視野の指数を尋ねる。	言語応答できない例では、視覚刺激に対する反応や指出しにより評価する。眼疾患により単眼の失明例では、他眼により評価する。	3
左腕	0=下垂なし(10秒間保持可能) 1=10秒以内に下垂 2=重力に抗するが10秒以内に落下 3=重力に抗する動きがみられない 4=全く動きがみられない	10秒数える間、腕を挙上させる(座位90°、臥位45°)。	麻痺がある例では、健常肢から検査する。失語症例では、パントマイムなどにより指示する。意識障害例では、痛み刺激に対する反応から推定する。(除脳硬直などの)反射性の動きは、スコア4とする。	5a
右腕	0=下垂なし(10秒間保持可能) 1=10秒以内に下垂 2=重力に抗するが10秒以内に落下 3=重力に抗する動きがみられない 4=全く動きがみられない	同上。	同上。	5b
左脚	0=下垂なし(5秒間保持可能) 1=5秒以内に下垂 2=重力に抗するが5秒以内に落下 3=重力に抗する動きがみられない 4=全く動きがみられない	5秒数える間、下肢を挙上させる(臥位30°)。	麻痺がある例では、健常肢から検査する。言語による従命不能例では、非言語的に指示する。意識障害例では、痛み刺激に対する反応から推定する。(除脳硬直などの)反射性の動きは、スコア4とする。	6a
右脚	0=下垂なし(5秒間保持可能) 1=5秒以内に下垂 2=重力に抗するが5秒以内に落下 3=重力に抗する動きがみられない 4=全く動きがみられない	同上。	同上。	6b
感覚	0=正常 1=異常	四肢近位部に痛覚(pin)刺激を加える。	脳卒中による感覚異常のみを評価する。意識障害例などでは、しかめ面や逃避反応などにより評価する。	8
言語	0=正常 1=軽度の失語 2=高度の失語 3=無言または全失語	(呼称カードにある)物の名前を尋ね、(文章カードから)少なくとも3つの文章を読ませる。	神経学的診察中に言語理解も評価する。呼称の評価には十分な時間をとる。最初の答えのみを評価する。視覚障害例では、手の中に置かれた物の特定、自発言語、復唱により評価する。気管内挿管例や発語不能例では、書字により評価する。	9
無視	0=正常 1=軽度の無視 2=高度の無視	両側の2点同時の(皮膚)刺激、および視覚刺激(絵カード)を与える。	両側の2点同時の(皮膚)刺激は閉眼して行う。高度の視覚障害があっても(皮膚)刺激に対する反応が正常であれば、スコア0とする。失語があっても、両側に注意が向いていればスコア0とする。	11

(Lyden PD, Lu M, Levine SR, Brott TG, Broderick J : NINDS rtPA Stroke Study Group. A modified National Institutes of Health Stroke Scale for use in stroke clinical trials: preliminary reliability and validity. Stroke 2001 ; 32 : 1310-1317)